

大正三十三年甲子元旦



年頭辭

茲值大正三十三年元旦之始。回顧過去。感慨良多。...

國家的實力の涵養

朝鮮總督 齋藤實

國家の實力を涵養するは、第一に國民の精神を涵養するに在り。...

春其聖恩長

大正甲子元旦 為京城日新新聞 昇水 奏

協同一致を望む

政務總監 有吉忠一

我々國民は、國家の統一と協同を第一と爲す。...

復興促進のモットーに

復興部 時實秋穂

復興の道は、國民の協同と一致に在り。...

本年における鐵道建設

鐵道部長 弓削幸太郎

本年の鐵道建設は、國家の発展に大いに寄与する。...

剛健なる國民精神

其れを失ふは吾々の一大耻辱 京城府 谷多喜磨

國民精神の剛健は、國家の強さを決定する。...

醒と働に徹すべき歳

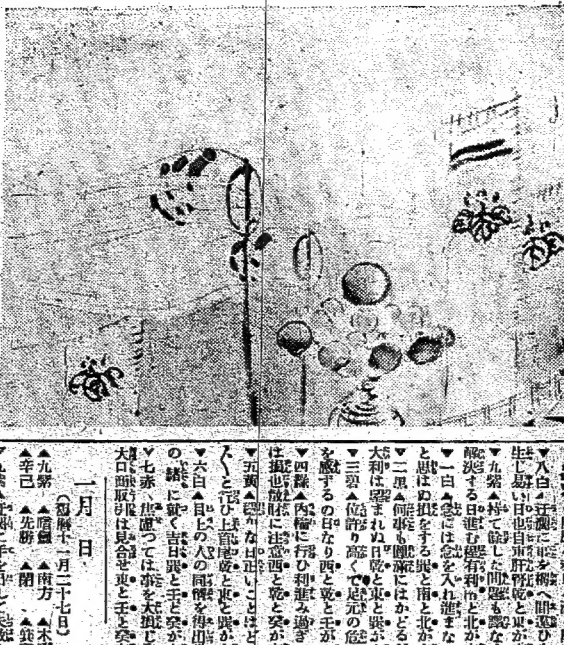
警務總監 松村松盛

新年の第一歩は、醒と働に徹するに在り。...

通俗太閤記

松林伯知講演
加藤由太郎速記

三十三回
徳川一統天下を築き、天下を平定した徳川家康は、その偉業を後世に伝えるために、通俗太閤記を著した。この書は、徳川家康の生涯を、通俗な言葉で描き、その偉業を後世に伝えるために、通俗太閤記を著した。この書は、徳川家康の生涯を、通俗な言葉で描き、その偉業を後世に伝えるために、通俗太閤記を著した。



徳川家康の生涯を、通俗な言葉で描き、その偉業を後世に伝えるために、通俗太閤記を著した。この書は、徳川家康の生涯を、通俗な言葉で描き、その偉業を後世に伝えるために、通俗太閤記を著した。この書は、徳川家康の生涯を、通俗な言葉で描き、その偉業を後世に伝えるために、通俗太閤記を著した。

酒清良醇
謹賀新年
東洋一柴谷合名會社

賀正
鶴澤鐵工所
製造機
製作
鶴澤鐵工所

賀正
藤崎吳服店
謹賀新年
麗澤會長 南波登發

賀正
林運送店
謹賀新年
麗澤會長 南波登發

賀正
金照善
謹賀新年
麗澤會長 南波登發

賀正
勝丸支店
謹賀新年
麗澤會長 南波登發

賀正
開慶館
謹賀新年
麗澤會長 南波登發

賀正
藤井良平店
謹賀新年
麗澤會長 南波登發

賀正
後藤生七郎
謹賀新年
麗澤會長 南波登發

謹賀新年

謹んで新春の賀を呈し、各位の御健康を奉祈候。

仁丹は益々御愛用を蒙り新發賣品仁丹のハミガキ亦破竹の勢を以て賣行候段忝と奉深謝候。

尚本年も不相變御引立切に奉希上候。

大正十三年一月元旦

日本大藥房
本舖森下博營業所
敬白

新年に際して 關東長官 兒玉秀雄

眞個に覺醒せよ

關東軍司令官 白川義則

[illegible]

思想を善導せよ

之が何よりも緊要な問題

滿鐵社長 川村竹治

徒らに萎縮すべきでない

鮮鐵經營は頗る多難

に於ける未曾^{みぞ}に朝鮮の如き直接支配に

なかつた土地に在住するもの
りては比の災厄を免れたこと

平とし、（一） 諸君より上り以て

大決心と奮然とを以て之に
ければならぬ。吾輩も之れを

て是非一日
べく最も有利なる立場にあ
と滑へやう。其處でして是

思ふべきでないと思ふ。

100

[illegible]

中島君之。
 物に倣つ
 新新春盛
 新年言志

宮崎組
宮崎吉太郎
電話四三三三

平山利治
電話黃金町
電話三六八

洋服三日會
花本洋服店
濱洋服店
巴屋洋服店
丁字屋洋服店
大屋洋服店
吉田洋服店
高田洋服店
山下洋服店
山川洋服店

中央廉賣所

[illegible][illegible]

京城醫師會



三井物產株式會社

京城支店

東洋拓殖株式會社

京城支店

朝鮮鐵道株式會社

農業、開墾、水利、灌溉
不動產管理信託

丕不二興業株式會社

朝鮮京城府黃金町一丁目

日本自動車株式會社
京城支店

株式會社 京城株式現物

取引市場

京城電氣株式會社

京城旅館組合

豐國セメント株式會社
京城出張所

東京府府大門五丁目
吉川宇治
本社 門司市清瀬町一丁目
工場 佐賀県 大川町 五丁目

震災後の美術傾向について……有島生馬

[illegible][illegible]

中村吉

[illegible]

大木雄二

[illegible][illegible][illegible]

粉
墨
年
信
志
石
印
工
部
新
華
社
印
行

現に起るものであつて、正
 統派の尊嚴に處するのと云へ
 。佛は此の二つの極端の擧つた
 は、今般非常に少く、創造世
 が隆々然として居る中、
 だかんならになり、我々は生命
 が服従したロバメカ、程度片足
 のに過ぎなかつたらんば、可なり
 と云ふ。たちんば、可なり
 するものである。觀海衆をそこ
 自己の神聖の底座をおきなけれ
 ばいかな。社會の他敵と人心
 の障礙となつたりとするもので
 なれば、それは既に障礙に墮れ
 る障礙である。
 己の人は此時の人間であり
 交遊をはからず、純粋に人の心
 の光輝をつつて、聖人と光輝
 せるの下で、あの偉しい道士の殿
 や、或時靈臺を平にいひ知れない
 なち、どんなに神しいといひ知れない
 若しもさういふものがなつたら
 私達には正所である、正所が来ない
 うちに感ずべきであらう。
 小児や少年、古い時代の貴婦と
 されてゐるのは、第四四段に
 描かれてゐる三對の貴族を以て
 恐しい
 自然は天啓だ
 を造つたが故だ
 である、種々、
 といふ風に
 費すところこ
 屋といふ奴は

□

自然は何故に有靈無靈なものを造つたか、蛇と不可解である。蛇と、蟻とは照葉樹の葉を食ふものである。蟻に風に至つてははたは飛散すること一通りでない。鼠といふ奴は頗る狡猾に昆蟲動物で、殊に狡猾である。其の智恵では人間は到底勝つて出ない。其間如何なる氣配でも生活出来るし、巧に伏して海上でも生活してゐる。蟻の設想を説くばかりか、葉を喰へては樹を遂にすなはち大抵ではない。

—

一
 子
 出
 子
 一
 子
 子

行海之方指掌圖

[illegible]

謹賀新年

坂口運送部 電話八番	平壤郵便局 職員一同	平松亮三 電話七六〇番	平壤材木商組合	松岡吉次 電話三九番	田中勳 外職員一同
金融組合 電話八番	鈴木謙吉 電話二番	兼二浦面 職員一同	佐藤無聲 電話二番	カフエーみよし 電話三三番	小林文二 電話二番
平壤水落富次郎 電話一三番	平壤刑務所 職員一同	松尾旅館 電話二番	大和組事務所 電話三番	三根旅館 電話三〇一五番	柴田鈴三 電話一八番
平壤承認運 送店組合	中務吉三郎 電話七番	齋藤酒造會社 電話三三番	兼二浦療病院 森方正 電話九番	岡本亥之吉 電話二六番	料理屋組合一同
安川松本商店 平壤出張所 電話一六番	八百菊 電話四八番	平安南道 价川警察署 職員一同	文具紙印刷 同業組合	大木商店 電話七八七番	内田録雄 電話二六番
黃州金融組合	杉浦淺吉 外署員一同	兼二浦驛有志	江東郡廳 職員一同	野上忠三 電話二番	安州警察 署員一同
瀧本理 電話三〇番	久利屋號 電話四二番	前田宇一郎 外署員一同	桑田商店 電話六三六五番	三宅政太 電話二番	奧田英一郎 電話二番
間永棟吉 電話九番	九龍公立學校 職員一同	九龍金融組合 理事大西拾松	中島安平 電話九四九番	安州館支店 電話九番	井上通雅 外署員一同
異儀田森太郎 電話九番	尾崎商店 電話九番	公立普通學校 職員一同	江東金融組合	三村梅雄 電話九番	安州金融組合
					安州郡廳 職員一同
					吉田豐 電話九番
					久田茂壽商店 電話九番
					藤村恒三商店 電話一〇六番

國風を眞正面にうけし松の音鴨が
 立てはたと止まりたり
 立つけぶりかな
 檀木 翠窓(龍山)
 若水と改まる名に汲む本に暗く
 夜すからの風きよたれと原を
 降りやまめこれの大雲
 東 洞水橋(會)
 新しき宵服を被て曉を仕事始
 工場にと行く

[illegible]

東華洋行

石原磯次郎

朝鮮計理株式會社

平山松太郎

新 年

1 9 2 4

謹 賀

電 話 本 局 三 六 九 番

所 務 工 園 花

吉 佐 國 花

京 城 資 金 町 一 丁 目

業 負 請 築 建 木 土
所 出 派 壤 平 組 馬 有

番 五 二 五 長 話 電

業 負 請

店 支 鮮 朝 社 會 式 株 糖 製 本 日 大

番 一 〇 一 香 〇 〇 一 話 電

社 會 式 株 氣 電 壤 平

番 一 四 〇 一 番 七 三 六 番 六 五 話 電

社 會 式 株 業 興 氣 電 鮮 朝

番 九 四 八 番 四 四 三 長 話 電

郎 太 虎 田 柴 役 務 取 專

番 三 四 七 長 話 電

場 市 魚 壤 平 會 社

番 一 三 三 話 電

里 龍 見 郡 川 份 道 南 安 平 鮮 朝

道 鐵 便 輕 川 份

店 支 鮮 朝 社 會 式 株 糖 製 本 日 大

番 三 〇 二 長 番 〇 〇 八 長 番 三 六 長 話 電

會 曜 金 邱 大

大 邱 曜 金 邱 大 會 社

大 邱 曜 金 邱 大 會 社

大 邱 曜 金 邱 大 會 社

司 公 木 採 倉 辨 旦 支

縣 東 安 洲 瀨 南